

さくら第493号

令和 3年 1月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬 重雄
春江町境 17-7:Tel51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

自分の番
うまぬかり
死にわり永まの
過去のいのちを
受けついで
いま自分の番を
生きている
それがあなた
のちねです
それがわたしの
いのちです
みつゑ

『干支と順番あれこれ』

2021年は『丑年・うしどし』です。丑年生まれの方は、物事をじっくりと考えてから行動するといひ、忍耐強く、粘り強く、ひたすら頑張る性格とのこと。

スロースタートでおっとりしていてもおだやかですが、怒るとこわく、自分の意見をなかなか曲げないガンコな一面もあるそうです。

牛といえば「菅原道真・すがわらみちざね」と深く結びついています。学問の神様といわれる菅原道真が中央政治の場から九州へと追放される途中、乗っている牛車が動かなくなり、やがて亡くなりますがその地が今の福岡県の太宰府天満宮でした。牛は神の使いであり全国の天満宮には牛の像が置かれています。

干支(えと)は、子(ねずみ)、丑(うし)、寅(とら)、卯(うさぎ)、辰(りゅう)、巳(へび)、午(うま)、未(ひつじ)、申(さる)、酉(とり)、戌(いぬ)、亥(いのしし)というように、動物が当てはめられていますが、どれも普通の動物とはちがう字が書かれています。なぜでしょうか。

十二支(干支)のはじまりは、紀元前17世紀から11世紀ごろに中国で考えられた暦(こよみ)です。12という数は、1、2、3、4、6で割り切れるとても便利な数であり、中国では占いにも使われていたといひます。

動物が出てきますが、そもそもの意味は植物の成長の様子を表しており、当時の人たちの多くは文字を読めないのひ、中国の天文学者が身近な動物を当てはめて覚えやすくしたといひます。それがやがて、時刻や方向、年を表すものとして使われるようになりました。

「子」は、種になりこれから生命が誕生する状態です。「丑」は、種から芽が出ようとする状態です。「寅」は、土から目をだしたようす。

「卯」は、茎や葉が大きくなるようすを表します。「辰」は茎や葉が大きくなり形が整った状態。「巳」は植物が完全に成長した状態。「午」は、植物の成長が止まり、衰えてきた状態。

「未」は、実がなり始める状態。「申」は、実が大きくなっていく状態。「酉」は、実が熟した状態。「戌」は、植物が枯れている状態。「亥」は、植物が種に生命を閉じ込めた状態です。

これらは、1年の1月から12月までの冬、春、夏、秋の流れにそって、これを1年ごとに当てはめて12年で一回りとなります。

また、一日の流れでは昼の12時を正午といひます。これは、1番目の「子」を0時としているので、7番目の「午」を使っている、これより前が「午前」であり後ろが「午後」です。

この12進方の基準は時の流れでよく使われており、人は12年を一回りとして、それが5回回った60歳を生まれ変わりともいひます。

1時間は60分であり、それが12時間が2回回って24時間で1日。12ヶ月で1年という周期を作っています。

それでは干支のそれぞれの特色、性格などをまとめてみますので、自分や友だちなどに当てはめてみましょう。中国では八卦(はっけ)といひ占いも進んでおりますが、当たるかどうかは自分で判断してください。

「子」=子孫繁栄。「丑」=粘り強さ・努力。「寅」=行動力・決断力。「卯」=飛躍・家内安全。「辰」=出世・権力。「巳」=生命・金運。「午」=健康・陽気。「未」=安泰・おだやか。「申」=魔除け・利口。「酉」=商売繁盛・親切。「戌」=忠誠・子宝。「亥」=無病息災・正義。

中国から伝わった「亥」は「バタ」を意味しますが日本では「イノシシ」として定着しました。2021年は新型コロナが早く終わることを願いつつ牛のごとく力強く一歩いっば進んで行きながら新しい目標を達成せねばと思ひます。